

# 令和4年度 算数科実践・研究計画

部 員	○猿田 千穂子, 伊藤 智美, 菅原 恵
-----	----------------------

研究テーマ  
**学びから生まれる新たな問いをもとに、協働的な学びを通して数学のよさを実感する子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

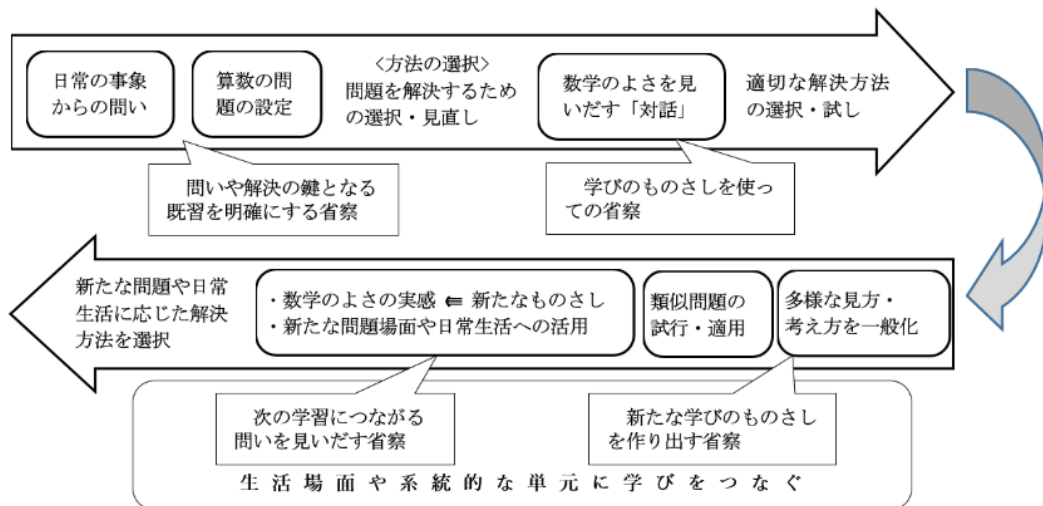
算数科では、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けることや、統合的・発展的に考察する力、簡潔・明瞭・的確に表す力、学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養うことを目標としている。

前年度の実践では、日常の事象を算数の問題場面として捉え直して学習問題を設定したり、前時の学習問題から新たな問いを見つけ発展的に考えたりする姿が見られるといった成果が得られた。しかし、協働的な学びを通して多様な見方・考え方を一般化していく段階において、よりよい解決の方法は何かを吟味する個々の力を高める必要があるといった課題が残った。

現実の世界と数学の世界を往還する中で新たな問題と出会い、その解決の過程において様々な見方・考え方に触れ、自ら数学のよさを見いだしていくためには、協働的な学びの中で比較検討し、一般化に向かい自らの考えを省察するための尺度をもつことが大切であると考える。主体的・協働的に問題に働きかけ、数学のよさに気付く子どもの姿を目指して実践・研究に取り組んでいく。

算数科で目指す自律した子どもの姿

- ・問題解決過程において、仲間との対話をもとに試行錯誤し、自己の考えを修正したり、再構築したりしながら、自ら進んで数学的な概念を獲得していく姿
- ・獲得した新しい知識や方法等を次の学習や生活の場面で活用し理解を深める姿



図：算数科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

## 2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

**統合的・発展的に考察する力につながる学びのものさしを、子どもと共有するための支援の工夫**

- 既習で身に付けた資質・能力を可視化したり、選び直しや試し直しの場を設定したりする。
- 協働的な学びの中で子どもたちがよさを感じた見方・考え方に対して、「よりよい方法と言えるだろうか」「他の数値や場面でも同じように考えられるだろうか」など再検討を促す問いを投げかけることで、自律的な省察を促していく。